

サビ処理剤

塩害ガード® サビ転換剤



特長

- サビだけに反応して、化学的に安定した黒サビを形成します。
- 塩害ガード施工に適した下地を形成します。
- 塗布後1時間で施工作业が可能です。

用途

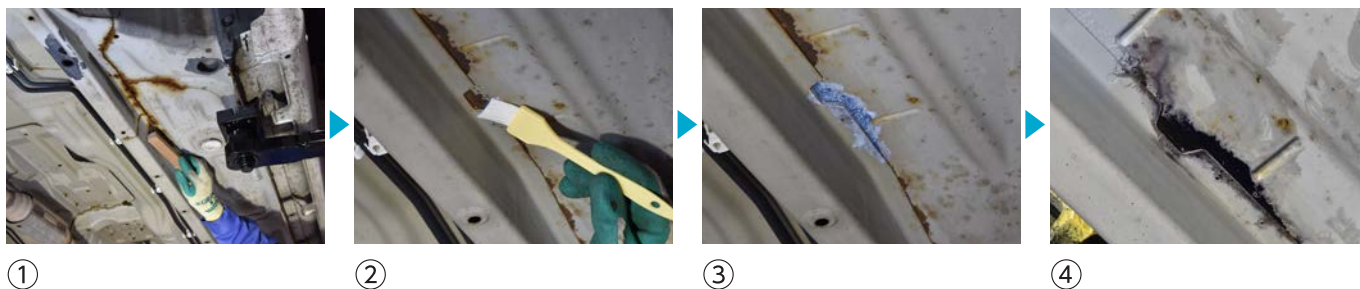
- サビている箇所への下地処理
- 経年車の塩害ガード施工前の下地処理に



品番 : 000458
 品名 : 塩害ガード サビ転換剤
 内容量 : 250mL
 入数 : 6本
 JANコード : 4985329104584
 消防法上の非危険物

使用方法

裏面の施工要領書をご覧ください。



株式会社 **イチネンケミカルズ** プロユースケミカル事業部

〒108-0023 東京都港区芝浦4丁目2番8号 <https://www.ichinen-chem.co.jp/>

札幌営業所 011-251-4580	名古屋支店 052-504-8171
仙台支店 022-788-0791	静岡出張所 052-504-8171
東京営業課 03-6414-5608	金沢営業所 076-237-3156
北関東営業所 0280-97-3050	大阪支店 06-6748-9960
群馬営業所 0270-25-1168	岡山営業所 086-805-1830
千葉出張所 043-214-0125	広島営業所 082-553-1013
西東京出張所 03-6414-5608	福岡営業所 092-472-2067
新潟営業所 025-226-7241	

取扱販売店

塩害ガード® サビ転換剤 施工要領書

1. 適用範囲

本施工要領書は、サビ転換剤の取り扱いに関する施工要領書です。

錆びを根本的に取り除けない部分に塗布し、赤錆といわれる水酸化鉄類を安定な黒錆（マグネタイト等）に簡易的に変換し、錆の促進を抑制するために開発された商品です。

このサビ転換剤は、下地処理剤としての性能は有しておりますが、単体で防錆能力を有するものではありません。上塗りの防錆塗料には、弊社水性・油性の塩害ガードをご使用ください。それ以外の塗料については、十分な性能確認が取れておりませんので事前にご確認の上、上塗り塗料をご選択ください。

2. 材 料

製品には、下記項目について記載しており、その一般性状を表1に示しております。

<製品表示事項>

- ・使用方法
- ・製品ロットNo.
- ・製造者
- ・取扱注意事項

表1. 一般性状 サビ転換剤

外 観	乳白色液体
比 重 (20℃)	1.04
PH (20℃)	3 (酸性)
引 火 点	なし
標 準 塗 布 量	100~150g/m ²
乾 燥 時 間	1時間(20℃)
塗 布 方 法	刷毛塗り

3. 塗布面の 前処理

①錆びをワイヤブラシやサンドペーパーでできるだけ除去してください。

この工程が非常に重要です。浮き錆びは確実に処理してください。

②錆を除去した後、パーツクリーナー等で脱脂洗浄してください。

油脂類が残存した場合、十分な性能を発揮できない場合があります。

4. 塗布要領

①「サビ転換剤」の容器は、良く攪拌してから必ずポリ容器(金属製容器は不可)に必要量だけを小分けして使用してください。

②水性塗料用の刷毛に薬品を適度にしみ込ませ、タレない程度に塗布してください。

錆びの発生場所にのみ塗布してください。錆び以外の所に塗布すると上塗り防錆塗料の本来の性能が十分に発揮されない場合があります。

③外気温が0℃以下の場合氷結することがありますので、そのような場合は5~40℃の温度が確保される室内などで塗布してください。

④塗布後の乾燥時間は、以下の表を目安としてください。乾燥が不足しますと、上塗り防錆塗料の十分な密着性が確保できない場合があります。

※以下の表の時間が経過した後、塗布した面が黒くなった状態をご確認のうえ上塗り塗装を行ってください。

外 気 温 (°C)	5	10	20	30
乾燥時間(時間)	3	2	1	1

※塗布部分が黒くならない場合は、再度塗布し乾燥させてください。

⑤使用後の残液は「サビ転換剤」の容器に戻さないでください。

⑥使用後の刷毛は水洗いしてから保管してください。

⑦「サビ転換剤」の容器は密栓し、氷結する恐れのない冷暗所に保管してください。

5. 安全性

労働安全衛生法による表示義務

----- なし

有機中毒予防規則

----- 該当せず

消防法による危険物

----- 該当せず

毒劇物取締法

----- 該当せず

①出来るだけ皮膚に触れないように保護具を着用し、付着した場合は水または石けん水で十分に洗い流す。

②目に入った場合、流水中で15分以上洗眼し異常を感じた場合は医師の診断を受ける。

③飲み込んだ場合は、腐食性が高いので水等を飲ませて胃の中を希釈してください。

直ちに医師の診断を受けること。

④誤って衣類に掛かった場合、服を脱ぐ前に直ちに汚染された衣類及び皮膚を多量の水で洗ってください。

⑤薬液をこぼした場合、出来るだけ空容器に回収した後、多量の水で洗い流す。

⑥更に詳しくはSDSを参照してください。

